

6. 日本本社から海外拠点の端末などの監視接続

事例6-1. 日本本社への接続、及び日本本社から海外支社の端末監視

【導入プラン】: IX-NET 通信回線帯域指定サービス

・IX-Routerを利用

【業種】: 不動産開発

・従業員数: 約20,000名

・利用拠点: シンガポール

◆ IX-NET 導入の背景・課題

- ・シンガポール支社の日本人従業員は、インターネットVPN経由による日本本社のシステムへの接続と、現地ローカルインターネット上にあるOffice365のアクセスポイントへの接続を併用して業務を行っていた。
- ・インターネットVPNによる日本への接続は、国際区間のインターネットの品質の問題により不安定だったり、遅かったりで、この点にも大きなストレスを抱えていた。
- ・このため、利用頻度の高い Office365への接続はVPN経由による日本への接続ではなく、シンガポール国内にあるOffice365のアクセスポイントへ接続していた。
- ・一方、IT専任者不在のシンガポール支社のシステム運用・監視、技術サポートは、日本本社のIT担当者リモート接続で対応していたが、現地日本人従業員のPCへリモート接続して現地ネットワークに接続する必要があり、何かと時間的拘束も生ずることから現地従業員への負荷も懸念材料となっていた。

◆ IX-NET が選ばれた理由、及び導入効果

1) 複数システムへの接続の際に、都度手動で切り替える不便さ、運用負荷の解消

日本側への接続と、シンガポール国内のOffice365への接続を、IX-Routerが自動切り分け可能なため、手動での接続先設定の切替という手間を省けるようになった。

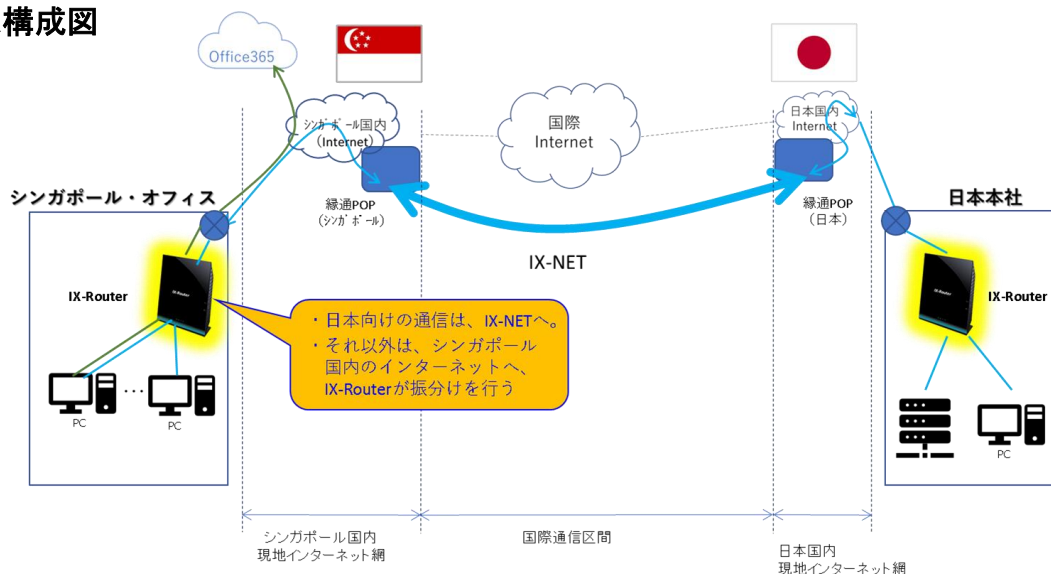
2) 日本への通信の安定性の向上

日本への通信が品質保証されたIX-NET 経由により、常に安定した通信状態を確保できるようになった。

3) 日本本社側からシンガポール現地のシステム監視、サポート等の利便性の向上

日本本社側、シンガポール・オフィス側の両拠点にIX-Router を接続することにより、L2接続環境が実現できるため、日本本社のIT担当者は現地メンバーの協力が無くとも現地のLANにアクセスできるようになり、リアルタイムでのログ収集作業や現地ネットワークの確認、メンテナンス等の作業が簡便化されるようになった。

◆ システム構成図



※この事例と関連する他の事例

事例7-1. 日本本社・設計部門と中国・製造部門間での国際遠隔会議 ~ Ricoh IWB(インタラクティブ・ホワイトボード)専用サービス ~